

## 学生による幼児の造形表現活動の実践報告

山田英吉

### Practice Report on Formative Art Project for Children at Nursery School by Students

Eikichi Yamada

**キーワード：** 幼児、造形教室、コミュニケーション、絵本、環境、実践力

#### はじめに

益々少子化が進む昨今、学生の多くは幼児と接する機会が少なく、幼児集団となると中学校や高等学校での職場体験等で保育所や幼稚園を訪問した経験を持つ一部の学生に限られる。

平成 26 年に保育学科に造形表現コースを設置したことを機に、幼児と関わる機会や経験が少ない学生が、保育の場で造形表現コースの学びを実践し、効果的に知の総合化を図るとともに、幼児集団とのコミュニケーションを実践的、効果的に経験する出前保育を年 2 回設定した。

本実践は、前年度の卒業生の取組の報告であり、在学生も同様の取組を実施している。

#### 1 第 1 回造形教室

##### (1) 実践内容

平成 27 年度第 1 回造形教室実施要項

- 1 目的 造形表現コースの学びを保育現場で実践・研究する。
  - (1) 学生が設定した題材や展開の工夫、課題解決のプロセスを通して、企画力や調整力、判断力、行動力、主体性などの実践力を育成する。
  - (2) 造形教室に参加する幼児全員が、表現を楽しみながら生き生きと集団制作に取り組むよう、意欲を引き出す展開やコミュニケーションを実践的に学ぶ。
- 2 日時 平成 27 年 6 月 16 日(火) 10:00～11:00
- 3 場所 深川西町保育所・さくらんぼ ホール
- 4 対象 メロン組<年長>

5 参加学生 造形表現コース1年生18名

(引率教員：山田英吉・保坂和貴)

6 内容 集団制作「海の生き物を大画面に描こう」

通常の設定保育の時間では困難な巨大絵画の制作を学生の支援によって効果的に実施し、大きく描くことの喜びと集団制作の楽しさや感動を幼児に体験させる。

7 実施の流れ

(1) 準備

- ・大型絵本「100階建ての海の家」
- ・画用紙ロール(90cm×10m:2本 ※岩や海藻で一人分のスペースを分け)
- ・絵の具(容器に溶いておく) ・梅鉢(人数分) ・筆(大中小を人数分)
- ・ローラー ・筆洗 ・バケツ4 ・ビニールシート ・キッチンペーパー
- ・海の生き物の絵の見本 ・ジンベイザメの絵(実物大)

(2) 会場設営(ホール)

- ①ビニールシートを敷き、ロール紙を2列に設置する(画面は見えないよう)
- ②2列に並べたロール紙の間のシート上に、梅鉢・筆・絵の具・筆洗・バケツに水等を設置
- ③学生の立ち位置(挨拶・進行・絵本の読み聞かせ・制作支援・補助)と幼児が座る場所確保

(3) 活動計画

園児入場、整列(学生と向かい合っご挨拶)⇒床に座るよう促す  
学生代表挨拶(ゼミ長)

①導入

- ・海の絵本を読み聞かせる
- ・絵本に登場した海の生き物たちを振り返る
- ・生き物たちがいないロール紙の海にみんなで生き物を描くことを提案する

②展開

- ・制作支援担当学生(園児一人に学生一人ずつ)が制作場所へ誘導する
- ・「描いてみよう」(制作支援担当学生は担当の園児と描く生き物についてイメージ化できるよう相談)※この段階でコミュニケーションづくりを!
- ・用意しておいた絵の具・梅鉢と筆、クレヨンを与える
- ・思い思いに描く ※園児の様子を見ながら学生が支援する

<留意点>子どもを褒めよう!

- ・大きさや色にはこだわらずにのびのび描くよう促す

- ・形を捉えられず描き始めで戸惑う場合、最初だけ補助はしても、次は子どもにチャレンジさせる
- ・各生き物の家族や仲間を描くイメージで各ゾーンを賑やかにする
- ・補助学生は、筆洗の水の交換や周辺の整理、激励
- ・全体の完成度を把握して判断し、制作終了を告知する

### ③まとめ

- ・園児をステージ前に誘導する（制作支援担当学生）
- ・手遊び（片付けと乾燥の間）「ごんべえさんのあかちゃん」「キャベツの中から」「トマトはとんとんとん」「山小屋」「一匹のネズミ」

※補助学生は、画面に溜まった絵の具をキッチンペーパー等で吸い取る

- ・進行の合図で、園児を中央に移動させ、補助学生は作品（2枚のロール紙）を持って園児を囲むようにつなげる
- ・海の中に入ったイメージで、みんなで泳ぐことを提案する
- ・作品の上に実物大のジンベイザメの絵を登場させる
- ・ステージ前へ園児を誘導し、活動の振り返りを行う

### ④終わりの挨拶

園児退場（ハイタッチで送り出す）

### (4) 後片付け <全員>

- ・作品は園に寄贈する（持ち帰らない）
- ・梅鉢等は洗わずに、バケツに入れたまま持ち帰る（絵画工作室で洗う）
- ・シートをたたんで紐をかけて玄関へ
- ・使用した会場の清掃（絵の具が残っていたらきれいに拭き取る）

## 8 評価

- |   |             |
|---|-------------|
| ①幼児全員が造形教室を楽しんでいたか                                | <十分・普通・不十分> |
| ②幼児全員が主体的に描く意欲が見られたか                              | <十分・普通・不十分> |
| ③幼児とのコミュニケーションは積極的だったか                            | <十分・普通・不十分> |
| ④計画通りにすすめることができたか                                 | <十分・普通・不十分> |
| ⑤授業における事前準備活動に遅刻・欠席することなく、<br>主体的に参加したか           | <十分・普通・不十分> |
| ⑥授業における企画（導入や展開の内容など）の協議の<br>場面で発案や意見、指導案作成に参加したか | <十分・普通・不十分> |
| ⑦後片付けや清掃が完璧にできたか                                  | <十分・普通・不十分> |
| ⑧成果や課題を明確にできたか                                    | <十分・普通・不十分> |

(2) 学生の自己評価(事後アンケートから) 一抜粋

(1) 造形教室の目的を踏まえて、各自の取組状況を振り返り自己評価しなさい

評 価 項 目	十 分	普 通	不 十 分
①幼児全員が造形教室を楽しんでいたか	12	6	0
②幼児全員が主体的に描く意欲が見られたか	5	12	1
③幼児とのコミュニケーションは積極的だったか	3	11	4
④計画通りにすすめることができたか	3	13	2
⑤授業における事前準備活動に遅刻・欠席することなく、主体的に参加したか	15	2	1
⑥授業における企画(導入や展開の内容など)の協議の場面で発案や意見、指導案作成に参加したか	6	10	2
⑦後片付けや清掃が完璧にできたか	8	10	0
⑧成果や課題を明確にできたか	9	7	2

(2) 5歳児を対象とした今回の造形教室の内容や環境設定・展開方法について  
記述の要約(子どもたちの取組の観察から)

①テーマ設定(海の中の生き物たちを描こう)

【記述の傾向】

テーマ設定自体に否定的な記述はなかった。

【主な記述】

- ・テーマが分かりやすく、アイデアも豊富に出てきたので良かったと思う。
- ・季節的にも対象年齢としても適切だった。
- ・夏が近く、海に行く機会があるのでこのテーマで良かった。
- ・季節的に合い、当日が快晴だったことがよりテーマに合っていたと思う。
- ・子どもたちのイメージが膨らむ設定で良かった。
- ・子どもたちがとても喜んでいて良かった。楽しそうだった。
- ・「海＝魚」とイメージしやすく、絵本や見本で様々な種類の生き物たちを知り、描くことができていた。
- ・テーマ設定は良かったが、海とは関係のないものを描く子どもがいた。
- ・子どもが知っている海の生き物が限られ、似た形になる状況が見られた。

②材料(ロール画用紙・ポスターカラー)

【記述の傾向】

材料等の選定について肯定的な記述が殆どだが、扱い方や制作の支援面での課題や否定的な記述が散見される。

【主な記述】

- ・丁度良いサイズだった。

- ・大画面を楽しく経験できて良かったが、画面の上部に手が届き難かった。
- ・もっと大きくても良い。もっと広く描きたがっているようだった。
- ・絵の具は扱いやすいポスターカラーで良かったと思う。
- ・クレヨンで描いた上に絵の具を使用（はじき絵）しても良かったと思う。
- ・絵の具が画面上で混じり、濁った色になった。
- ・画面の着色する順番を考える必要があった。乾かないうちに手を触れたり、濁らせたりした。
- ・絵の具が薄目だったと思った（水加減）。

### ③画面の環境設定（制作範囲の分け方等）

#### 【記述の傾向】

一人ひとりの制作範囲を海草や珊瑚等で分けたアイディアの効果を述べる肯定的記述が多い。否定ではないが、区分けの不十分さを課題とする記述も見られる。

#### 【主な記述】

- ・説明しなくても決められた範囲に描くことができていた。
- ・子どもによって描くペースが異なるので、公平で良かった。
- ・雰囲気があり、子どもたちにもどこまでが範囲かが分かりやすかった。
- ・何人かが画面の上部で隣にはみ出していたので、海藻やサンゴの絵は画面の上部まで必要だった。
- ・描くスペースがなくなって、隣にはみ出して描こうとする子どもがいた。
  - ・描く生き物が大きくて、スペースが狭く感じた。
- ・一人分の範囲をもっと広くしても良い。

### ④導入に絵本を使用したこと

#### 【記述の傾向】

子どもたちが良く集中していたことから効果的という記述が殆どだが、絵本の読み聞かせだけの効果に疑問を抱いた記述が見られた。

#### 【主な記述】

- ・子どもたちがとても集中していた。
- ・よそ見もせず食い入るように見てくれた。登場する生き物の名前を声に出しながら楽しんでいた。
- ・大型絵本を使用したのが良かった。
- ・次に何が出てくるかとワクワクしていた。

- ・子どもたちが集中し、問いかけにも答えてくれたので嬉しかった。
- ・テーマと絵本の内容の整合性がとれており、興味を持ってもらえたと思う。
- ・効果的で子どもたちが制作に入りやすくなった。
- ・絵本に興味を持ち集中もしていたが、実際の制作へのイメージには上手くつながっていなかったように思う。

⑤歌・手遊び（ごんべえさんのあかちゃん・キャベツの中から・トマトはとんとんとん・山小屋・一匹のネズミ）

【記述の傾向】

子どもたちを十分に楽しませることができたという達成感のあるものは少数で、課題を挙げる記述が目立つ。

【主な記述】

- ・いくつかは「知っている」や「できる」と楽しみながらできていた。
- ・みんな楽しんでいたと思う。
- ・〇〇やりたい！次は〇〇！と声が上がったのが嬉しかった。みんな一生懸命できるようになろうとしていた。
- ・良かったが、もっと子どもたちを乗せられるなお良い。
- ・少しぎこちなかったが、子どもたちは見様見真似で楽しんでいた。課題はテンポと間だと思う。
- ・出来ている子どもと見ているだけの子どもがいたが、周りとのコミュニケーションをとりながら楽しそうだった。
- ・話し方などを工夫できるともっと良かった。
- ・制作活動の後で、集中力が低下していた様子で、身体全体を動かして踊ったりする方が発散や切り替えができてより楽しめたのではないかと。
- ・もっと盛り上がると思っていたので残念。
- ・もっと子どもたちの興味を惹くようにできたら良かった。
- ・手本を示さずに真似るように促したが、すぐに理解できて楽しむ子どもと時間がかかって戸惑う子どもがいた。

⑥子どもたちの掌握・動かし方（子どもの反応などから）

【記述の傾向】

集団を統括することの難しさ、未熟さを実感した記述が目立つ。

【主な記述】

- ・テンポが悪かった。自分たちの手際が悪いと感じた。戸惑うことなく誘導

することも必要。

- ・子どもの惹き付け方を学ばなければならないと思った。
- ・間が空いてぎこちなかった。実況中継なども加えると良かったと思った。
- ・学生側が戸惑って子どもたちが無言になることが多かった。もっと予想される子どもの動きを踏まえ、活動の流れも全員が把握して実施できると良かったと思う。
- ・指示に迷いがあった。テキパキやれたら子どもたちも安心すると思う。
- ・学生だけで子どもたちを落ち着かせたり整列させるのはまだ困難だった。
- ・子どもたちの想定外の動きに対応する事前の策を練っておくべきだった。
- ・制作に夢中になってくれた。

#### ⑦まとめの鑑賞方法

##### 【記述の傾向】

子どもたちの喜ぶ様子にも、コントロールできない自分たちの経験不足や準備不足の反省が読み取れる。無回答（10名）が多い。

##### 【主な記述】

- ・描いた海の中の絵に囲まれて泳いだりして楽しんでくれた。想像以上に喜んでいて、とても楽しそうだった。
- ・子どもたちが泳ぐ動きをしていた。自分の描いた絵を探す楽しみもあった。
- ・自分の描いた部分を探す子どもが手をつないでくれた。
- ・子どもたちが素晴らしく、生き生きと描いてくれた。学生全員がもっと褒め言葉をかけ、積極的に輪の中に入り、ジンベイザメ登場時の言葉かけが必要ではなかったか。
- ・興奮して走り回る子どももいたので、落ち着かせることができるような働きかけがしたい。
- ・円形に囲むのではなく、一列にしたら子どもたちが落ち着いたのか。

#### (3) 学生の役割分担 一略一

#### (4) 成果と課題

##### ①自分自身の向上や成長につながると感じたこと

##### 【記述の傾向】

子どもとの接し方等のコミュニケーションに関わる記述が殆どである。学生の多くが初めての体験で戸惑いが読み取れる。

### 【主な記述】

- ・言葉かけや初めて接する子どもとのコミュニケーションの取り方、失敗を怖がり、なかなか描き出せない時のさりげないサポートを学んだ。
- ・実習前に絵本の読み聞かせを経験し、少しでも慣れることができた。
- ・子どもたちそれぞれの反応が新鮮で勉強になった。
- ・子どもたちの表情や反応を間近に感じる事ができた。
- ・子どもたちを前にして分かりやすい説明ができる力が求められること。
- ・子どもたちを集中させるような声かけを心がけたこと
- ・子どもたちの興味を惹くにはどうすれば良いかを考えた。
- ・全体を把握しながら動くことを知った。
- ・家族以外の幼児と初めてコミュニケーションをとることができた。

### ②今後、努力が必要だと感じたこと

#### 【記述の傾向】

無回答（2名）以外はコミュニケーション力に関する記述である。

#### 【主な記述】

- ・コミュニケーション力。
- ・子どもたちに積極的に話しかけること。
- ・初めて声をかける場面でどうして良いかわからず、制作開始ぎりぎりまで声をかけられなかった。努力が必要だと感じた。
- ・子どもを惹きつける声掛けや技術がまだ足りないと感じた。
- ・子どもに対するコミュニケーション力とお手本になるだけの描写力。
- ・子どもたちの予想外の発言にも対応できるようになりたい。
- ・季節の花や行事などをよく知り、話題やコミュニケーションに役立てる。
- ・適切な環境構成とコミュニケーション、状況判断。
- ・もっと積極的な声掛けで子どもたちを静かに集中させられるようになる。

### ③造形表現コースの学生としての満足度とその理由

満足度(%)	分布	理 由 (記述の概要)
～90	0	
89～80	7	<ul style="list-style-type: none"><li>・もっと沢山話し掛けられたら良かった</li><li>・楽しかったがどう接すると良いかわからなかった</li><li>・もう少し誘導などをきちんとできると良かった</li><li>・制作補助係で子どもたちと話すことができなかったのは大きい楽しんでもくれた</li><li>・子どもたちが楽しんでいたように思う</li></ul>



		・自分が焦ったり戸惑ったりした
79～70	3	・もっと余裕をもって行動したかった ・実習前に園の様子を僅かでも知ることができた ・事前準備段階で、どのように行動する等を全体で共有できると良かった
69～60	5	・楽しめた部分はあったがコミュニケーションが上手く取れなかった ・もっと上手に進行したかった ・まだまだなので ・楽しくはできたが子どもが遠慮がちだった ・もっとガツガツいくべきだった
59～50	1	・まだまだできることが沢山あり、改善すべき点も見つかった
49～40	0	
39～30	1	・指示や促しもコミュニケーションももっとできたように思う
29～20	1	・自分を出せず思ったことができなかった

平均	65.6%
----	-------

## 2 第2回造形教室

### (1) 実践内容

<p>平成27年度第2回造形教室実施要項</p> <p>1 目的 造形表現コースの学びを保育現場で実践研究する。</p> <p>(1) 学生が設定した題材や展開の工夫、課題解決のプロセスを通して、企画力や調整力、判断力、行動力、主体性などの実践力を育成する。</p> <p>(2) 造形教室に参加する幼児全員が、表現を楽しみながら生き生きと集団制作に取り組むよう、意欲を引き出す展開やコミュニケーションを実践的に学ぶ。</p> <p>2 日時 平成27年12月8日(火)10:00～11:00</p> <p>3 場所 深川西町保育所・さくらんぼ ホール</p> <p>4 対象 メロン組&lt;年長&gt;</p> <p>5 参加学生 造形表現コース1年生18名 (引率教員:山田英吉・保坂和貴)</p> <p>6 内容 絵本の世界をつくろう 絵本「はらぺこあおむし」(エリック・カール)</p> <p>(1) 絵本に登場するキャラクターや環境を幼児が学生の支援によって製作する。</p> <p>(2) 絵本の世界に迷いこんだかのように、幼児が絵本のキャラクター等に扮して、絵本のストーリーを辿る。</p> <p>(3) イメージを共有し、協力して各製作物を登場させていくプロセスを通して集団制作の楽しさや感動を体験させる。</p> <p>7 実施の流れ</p> <p>(1) 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型絵本「はらぺこあおむし」(エリック・カール) ・段ボール</li> <li>・事前製作物(あおむし頭部・アゲハチョウ) ・クレヨン ・カット不織布</li> <li>・段ボールカッター ・のり ・両面テープ ・絵の具(容器に溶いておく)</li> </ul>
---

- ・梅鉢（人数分）      ・筆（大中小を人数分）      ・ローラー      ・スポイト
- ・筆洗      ・バケツ      ・ビニールシート      ・キッチンペーパー      ・ゴミ袋

(2) 会場設営(ホール)

- ①ビニールシートを敷く
- ②絵本の位置、アオムシ頭部の置き場所、材料(段ボール)の配置
- ③ローラー・トレイ・クレヨンセット・絵の具・スポイト・バケツ(水)等を設置
- ④学生の立ち位置（挨拶・進行・絵本の読み聞かせ・制作支援・補助）と幼児が座る場所確保

(3) 活動計画

①導入 (10分)

幼児入場、整列（学生と向かい合っご挨拶）⇒床に座るよう促す  
学生代表挨拶（ゼミ長）

- ・絵本「はらぺこあおむし」を読み聞かせる
- ・あおむしが食べたもの・色を振り返る
- ・絵本に登場したものを作することを提案する
- ・約束事の確認

②展開1：「あおむし」の体を製作する (15分)

- ・頭部を見せて、体がないのでみんなで作することを提案する
- ・作支援担当学生(園児一人に学生一人ずつ)が製作場所へ誘導する
- ・段ボールカッターの使用方法を例示する  
※この段階でコミュニケーションづくりを！
- ・楕円形を下描きしたダンボール板を段ボールカッター切り取り、ローラーや刷毛を使用して着色する  
＜留意点＞子どもを褒めよう！  
※着色後、補助学生が乾燥させながら幼児が首から下げられるようひもを取り付ける

③展開2：絵本に登場した食べ物を製作する (20分)

- ・登場した食べ物の形を下描きしたダンボール板を与える
- ・段ボールカッターで切り取り、着色する  
(時間に余裕が無ければ着色のみ)

④展開3：絵本に登場したアゲハチョウを製作する

- ・羽4枚に幼児3名ずつに分かれ、様々な形にカットしたメタリック調不織布を羽に貼り付けて、美しいアゲハチョウを製作する
  - ・担当学生は羽を組み立ててアゲハチョウを完成させる
- 製作終了— 補助学生は、床の絵の具等を片付けて配置につく

⑤展開4：絵本のストーリーを辿る

- ・幼児全員が自分で製作した楕円形の体を首から下げる
- ・「あおむし」頭部を持った学生の後ろに繋がり「はらぺこあおむし」になる

- ・並べた段ボールの食べ物を一つずつ食べていく動き（先頭学生が穴をあけていく）に、幼児たちが倣って進む
- ・食べ終わったら座るよう促す（蛹になり蝶に羽化する準備）
- ・担当学生が、アゲハチョウの羽を広げる

③まとめ (10分)

(記念撮影)

- ・メロン組幼児をステージ前に誘導し着席

- ・絵本の世界を再現する活動の振り返り
- ・好き嫌いなく食べることの大切さを伝える
- ・終わりの挨拶  
幼児一人ひとりが整列した学生とハイタッチで退場

(4) 後片付け<全員>

- ・作品は持ち帰る
- ・梅鉢等は洗わずに、バケツに入れたまま持ち帰る（絵画工作室で洗う）
- ・シートをたたんで紐をかけて玄関へ
- ・使用した会場の清掃（絵の具が残っていたらきれいに拭き取る）  
段ボールの切れ端やキッチンペーパー等のごみをまとめる（持ち帰る）
- ・玄関へ移動し、挨拶、積み込み・乗車

8 評 価

- |   |             |
|---|-------------|
| ①幼児全員が造形教室を楽しんでいたか                                | <十分・普通・不十分> |
| ②幼児全員が主体的に描く意欲が見られたか                              | <十分・普通・不十分> |
| ③幼児とのコミュニケーションは積極的だったか                            | <十分・普通・不十分> |
| ④計画通りにすすめることができたか                                 | <十分・普通・不十分> |
| ⑤授業における事前準備活動に遅刻・欠席することなく、<br>主体的に参加したか           | <十分・普通・不十分> |
| ⑥授業における企画（導入や展開の内容など）の協議の<br>場面で発案や意見、指導案作成に参加したか | <十分・普通・不十分> |
| ⑦後片付けや清掃が完璧にできたか                                  | <十分・普通・不十分> |
| ⑧成果や課題を明確にできたか                                    | <十分・普通・不十分> |

(2) 学生の自己評価(事後アンケートから) 一抜粋一

(1) 造形教室の目的を踏まえて、各自の取組状況を振り返り自己評価しなさい

評 価 項 目	十 分	普 通	不十分
①幼児全員が造形教室を楽しんでいたか	18 (12)	0 (6)	0 (0)
②幼児全員が主体的に描く意欲が見られたか	16 (5)	2 (12)	0 (1)
③幼児とのコミュニケーションは積極的だったか	15 (3)	2 (11)	1 (4)
④計画通りにすすめることができたか	11 (3)	4 (13)	3 (2)
⑤授業における事前準備活動に遅刻・欠席することなく、 主体的に参加したか	10 (15)	6 (2)	2 (1)
⑥授業における企画（導入や展開の内容など）の協議の 場面で発案や意見、指導案作成に参加したか	7 (6)	11 (10)	0 (2)
⑦後片付けや清掃が完璧にできたか	11 (8)	8 (10)	0 (0)
⑧成果や課題を明確にできたか	9 (9)	8 (7)	1 (2)

※ ( )は第1回目の数値

(2) 5歳児を対象とした今回の造形教室の内容や環境設定・展開方法について

記述の要約(子どもたちの取組の観察から)

①テーマ(絵本「はらぺこあおむし」の世界を表現しよう)設定

【記述の傾向】

子どもたちに馴染みのある絵本であることを理由に肯定的な記述が殆どである

### 【主な記述】

- ・子どもたちが知っていたのでやりやすかった。
- ・みんなが知っている絵本で、イメージしやすかったと思う。
- ・日頃から目にしている絵本で、理解しやすく、適したテーマだった。
- ・想像力が豊かな子どもたちが楽しめる活動になっていたので良かった。
- ・よく知っている絵本で、色塗りも段ボールを切ることも集中して楽しめる内容だったと思う。
- ・色が独特で、子どもたちが「あおむし」になるところが良かった。
- ・丁度良い。良かった。
- ・発表会で「はらぺこあおむし」を描いていたそうで、少し残念だった。

### ②材料(画用紙を貼りつけたダンボール板、刷毛、ローラーなど)

#### 【記述の傾向】

幼児にローラーや刷毛での着色を体験させられたこと、それらの事前点検の不備に関する記述が多い。

#### 【主な記述】

- ・とても良かった。
- ・段ボールを切り抜く作業が大変だった。
- ・切り取る段ボールが沢山あって良かった。
- ・ローラーを使って上手に塗れていて良かった。
- ・普段使わないローラーや刷毛での着色が経験させられた。
- ・ローラーが初めての体験だったらしく喜んでくれた。
- ・塗る、切る、貼る、の作業が一通り含まれていて良かった。
- ・様々な道具や材料を使うことができて楽しめたと思う。
- ・ローラーに回り難いもの、固まっている刷毛があった。
- ・学生が使用するハサミの持参を忘れた。

### ③段ボールカッターの使用

#### 【記述の傾向】

事前に担任保育士が練習させていたことで使い方を知っていた分スムーズにカットしたこと、使い慣れてはいないので子どもによって差があったが、良い経験の場になったこと等の記述が多い。学生自身が使い慣れておらず力任せに切る感覚であることが読み取れる。

#### 【主な記述】

- ・最初は難しいと思ったが、意外に上手に使えていたので感心した。
- ・子どもたちが事前に経験していた作業のため、スムーズに進んだ。でも少し大変そう。
- ・早い子どもと遅い子どもの差が大きく、後の作業に支障が見られた。
- ・苦戦していたが楽しんでいた。
- ・少し難しそうだった。力が必要で、女子には切り難い。
- ・力が必要で疲れている子供がいた。
- ・慣れてくると上手く切ることができてきた。
- ・少し硬い段ボールに対して効果的だと思った。手こずっていたが良い刺激になったと思う。

#### ④製作物（あおむし・食べ物・アゲハチョウ）

##### 【記述の傾向】

この時期の年長クラス5・6歳児の表現力や技能を直に見て、第1回造形教室からの成長ぶりを実感させられた様子が分かる。

##### 【主な記述】

- ・「あおむし」も食べ物もアゲハチョウもカラフルで見ていると楽しい。可愛い。
- ・時間の余裕がなかったが、子どもたちの着色がとても上手だったと思う。
- ・限られた時間でよく作ってくれたと思う。
- ・予想以上に完成度が高く驚いた。
- ・先生が指摘したとおり、5歳児には着色と段ボールのカットだけでは簡単な作業だと思った。
- ・食べ物の製作は、リンゴのような単純な物だけでなくサクランボパイなどの変わった物の方がより満足させられると思った。
- ・食べ物をもっと工夫すると良かった。

#### ⑤子どもたちの掌握・動かし方（子どもの反応などから）

##### 【記述の傾向】

進行担当学生の進行振りが、学生たちとの動きと概ねタイミングやテンポが良く、子どもたちを支援しやすかったこと、2回目で幼児も学生も動きが良かったことが読み取れる。

##### 【主な記述】

- ・司会進行の進め方が上手で勉強になった。実習に向けて頑張ろう。
- ・進行の自分がもっと全体の動きを把握するべきだった。

- ・学生の進行に従って上手く動くことが出来た。
- ・スムーズで良かった。
- ・もっと声かけしてスムーズにできると良かった。
- ・一人ひとりに合わせた支援ができていたと思う。
- ・2回目ということもあり、積極的になってくれたのでスムーズに動いてもらえたと思う。
- ・臨機応変に出来たと思う。

#### ⑥まとめ（絵本のストーリーを辿る～アゲハチョウになるまで）

##### 【記述の傾向】

楽しませることができたという記述が多いが、実践してみて分かる多少の不十分さを感じていることが読み取れる。

##### 【主な記述】

- ・楽しんでくれたので良かった。
- ・食べ物をモグモグする動きを照れる子どもはいたが概ね良好。
- ・子どもたちは絵本のストーリーを話しながら参加しており、絵本の世界をしっかりと楽しめていた。
- ・大きなアゲハチョウに大喜びしていた。
- ・「あおむし」になってからの工夫があればと思ったが、今回の展開も良い。
- ・子どもたちの感激振りが思ったより少なかった。
- ・予定時間を少しオーバーしたが、余すことなくやり切った。
- ・準備の余裕の無さや当日の忘れ物等、不十分な部分が多く反省。

#### (3) 学生の役割分担と取組の振り返り ー略ー

#### (4) 成果と課題

##### ①自分自身の向上や成長につながると感じたこと

##### 【記述の傾向】

年長の子どもたちの表現力や技能の発達、学生自身の向上の気づきがある

##### 【主な記述】

- ・造形の設定保育など、実習に向けて、直接子どもたちと関わり、どのように全体を見るのか少しだけ分かった。
- ・1回目より人前に立つことに慣れた。

- ・最初は子どもたちの反応があまりなかったが、繰り返し話しかけたらよく話すようになった。
- ・思った以上に5・6歳児は色彩をイメージできていることを知った。
- ・子どもたちと話すことができた。
- ・子どもの感性に触れられたと思った。
- ・年長の子どもの発達や表現力が分かった。
- ・子どもたちの成長が感じられた。もう、できることが多いと分かった。
- ・困ったことへの対応が作業しながらでもできた。
- ・事前準備で自分の意見を出して説明することができた。
- ・事前準備で具体的なイメージをもって取り組むことができた。
- ・ハプニングがあってもとっさに対応できたことや的確に作業内容等を伝えることができた。
- ・製作物の工夫等を試行錯誤しながらできるようになった。
- ・保育者があまり声をかけなくても、子どもに塗りたい色を選ばせることで、描きたい、塗りたいという気持ちが伝わってくる。

## ②前回できなかつたことができた、向上したと感じたこと

### 【記述の傾向】

第1回目と比較して、子どもたちとのコミュニケーションに慣れ、活動の流れを理解して見通しをもって参加していることが読み取れる。

### 【主な記述】

- ・落ち着いて行動できた。担当以外の子どもにも関わることができた。
- ・人前に立つことに慣れた。
- ・計画的な活動でスムーズに実施できた。
- ・前回よりも子どもたちと話すことができた。
- ・子どもたちとの関わりを増やすことができた。
- ・子どもたちと会話しながら促しや指導仕方が分かってきた。
- ・子どもたちの反応を見ながら行動することができたと思う。子どもの意見や意欲を受け止めることができた。
- ・意欲、体調管理など。

## ③今後、努力が必要だと感じたこと

### 【記述の傾向】

コミュニケーションに関する記述が殆どである。

【主な記述】

- ・最終チェックは厳重に行う。運搬の際の確認など。
- ・絵の描き方。
- ・表現力や語彙力を豊かにしたい。誉め言葉が同じパターンだった。
- ・子どもたちとのコミュニケーション。沢山話し掛ける。
- ・コミュニケーション力。子どもたちとの会話の展開が上手くできない。
- ・全体を見通せるようになること。
- ・計画的に展開していくこと。
- ・自分の意見を分かりやすく伝える努力をする必要があると思う。
- ・自然に絵筆を持つよう促すことができなかった。

③造形表現コースの学生としての満足度とその理由 ※( )は第1回目の数値

満足度(%)	分布	理由(記述の概要)
～90	6  (0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな頑張れた。子どもたちも楽しんでいた。</li> <li>・前回よりも子どもたちが意欲的に参加していることが分かり、自分自身がリラックスして活動できた</li> <li>・学生同士がグループで助け合えてよかった。</li> <li>・楽しそうだったから</li> <li>・忘れ物があった分の減点</li> <li>・もっと力をつけて活躍したかった</li> </ul>
89～80	5  (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20%は準備不足！早くから準備が必要</li> <li>・製作は子どもたちも満足したと思うが、準備でもたつきがあった</li> <li>・コミュニケーション不足があった</li> <li>・忘れ物や準備不足があったから</li> </ul>
79～70	3  (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだできていない(達成できていない)ことがある</li> <li>・子どもたちを楽しませることはできたと思うが、全体の準備作業にはよくはできていない</li> </ul>
69～60	1  (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果的には良かったが、全員で段取りを何回も確認したのに分かっていない学生が多かった</li> </ul>
59～50	2  (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備は製作活動を想定しながら何が必要か考えながら取り組んだが、当日参加できなかった</li> <li>・当日参加できなかったから</li> </ul>
49～40	0  (0)	
39～30	0  (1)	
29～20	1  (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備物製作しかできなかったから</li> </ul>

平均	75.3% (65.6%)
----	---------------

※( )は第1回目の数値



### 3 考察

造形教室の目的は、造形表現コース1年生が、保育学科の学び・コース科目の学びを保育の場で実践する活動を通して、企画力や調整力、判断力、行動力、主体性などの実践力を効率よく育成すること、幼児全員が表現を楽しみながら生き生きと製作に取り組む意欲を引き出す展開やコミュニケーションを実践的に学ぶことであり、言わば学生本位で設定したものである。

事後アンケートでは、設問も意図的ではあったが、学生たちが自己評価や満足度、記述の多くを幼児たちの反応や姿から自らの達成度を判断している。

学生の多くが課題とした幼児とのコミュニケーションの積極性の項目(2-(2)-(1)の表の項目③)が最も高まりが顕著であるが、同表の項目②の幼児の主体的に取り組む意欲の数値の高まりと連動している。

2年次の保育実習・教育実習を踏まえても、学生一人ひとりが現在の課題を明確にするうえでも、幼児の姿から判断すること、幼児のための保育計画であるという視点を1年次で定着させたい。

また、造形表現コースの1年生は第1回造形教室と第2回造形教室との間に2回の人形劇公演や大学祭期間中の「子どもの広場」開設(バルーンアート等)、工作教室ボランティアなどで幼児との交流を経験しており、その経験が学生の事後アンケートの自己評価や記述、満足度にも少なからず反映したと考えられる。さらには、子どもの文化財と言われる絵本や紙芝居、手遊び等の実践力向上、絵本やパネルシアターの制作、手づくりパペットの演技等を授業の学びで身に付けてきたことが、活かされていることは言うまでもない。

知識や経験の積み重ねで恥じらいや不安が徐々に払拭されていたこと、克服を義務とする意識が高まっていたこと等から、学生の主体性や企画・準備の段階が重要であること、そして単発ではなく複数回の実施が不可欠であることが見えてくる。

一方、対象とする保育の場にある幼児たちにとっては、普段の造形表現活動とは異なる環境であり、それだからこそできる貴重な体験と育ちをもたらす機会である。

学生は高い意識を持って臨むことが求められる。第1回造形教室は海の生き物と動物園を隔年でテーマとして実施、第2回目は、絵本の世界の再現であるが、身近にある様々な素材や道具を経験させたり工夫して活用することを重視している。様々な道具や材料の体験に興味関心が高まり、製作を通して達成感・満足感を味わい、意欲的に表現を楽しむ姿へと導かれている。因みに平成28年度入学生の第2回造形教室も絵本の世界の再現がテーマだが、身近な日用品や自然物などの素材に触れ、表現に活用することを柱とし、幼児の関心を高めている。実施時期によっては季節や自然との関わりはやや薄

いが、人的な環境を活かして身近な事象や物に興味を持って関わることや他の幼児の考えや表現を取り入れてより良いものにしようとする意欲、形や大きさ、量の比較等にも広がっていく展開と幼児たちの姿からは、新しい幼稚園教育要領の領域「環境」にも関連した学びが含まれていると捉えている。なお、本実践報告の実施施設（深川西町保育所）は、広大な敷地に花や野菜栽培ゾーン、野鳥や昆虫が集まる散策ゾーンが造営されている。白樺樹液の採取から春の白樺の描く活動（図画工作の授業で四月に実施）のような北国らしい自然環境を取り入れた造形教室という展開の広がりを模索しているところである。

実践を通して、造形の表現分野の学びだけでなく、保育の幅広い学びとの総合化や意識や視点を高くすることに繋がれば生きた学びであり、それは実践力の一層の向上に資する取り組みとなる。さらなる検証と実践内容の改善が必要であるが、今後の課題としたい。

企画段階で学生たちはともすれば幼児の誰もが簡単にできるように材料も製作段階も手を掛けて失敗させないようにと無難に走る傾向が見られた。簡単にできることには興味を持たないことや達成感がないこと、5・6歳児の発達の程度を教員から助言され、メロン組の様子や取組の経験等を聴き取り調査して難易度を設定していった。担任保育士からも「やったことがないものでも教えてあげてチャレンジさせることは重要なこと」と助言をいただいた。体験させる難易度を学生が共通理解しながら、幼児の個人差に対応する支援を心がける支援体制を目指すこととした。第2回造形教室でようやくそのことが機能して、それが学生の満足度に反映されたと思われる。

## おわりに

私が所属する研究団体だけを見ても、学生による子どもを対象とした造形表現に関するワークショップ等は、様々な場面、規模、回数、内容で多くの大学が取り組んで成果を上げており、小規模のものを含めると全国各地で相当数の事例があると推察する。一方、本学のような保育や幼児教育の学科、特に短期大学においては、実習が2年次に集中し、学生の向上に大きな成果が期待できても、地域の保育現場等からの要請が増えてきていても、学科やコース単位で学外へ出る機会を増やすことは困難である。本学の保育学科造形表現コースの場合は、1年次には人形劇制作・公演(3回)と並行していることから造形教室は

年2回に留めている。2年間は短い。一回一回が実に貴重な機会である。日頃から協力いただいている深川西町保育所、深川幼稚園、妹背牛保育所には改めて深く感謝の意を表すところである。

また、今年度で造形表現コースの第三期生が卒業して保育現場に赴く。造形教室や人形劇公演を経験した学生が保育士や幼稚園教諭として活躍し始めることに自ずと期待は高まる。